

# 巻町の越後鶴亀

## 御成婚祝賀用酒

## 納采祝賀神酒

### 県酒の榮譽 皇室へ上納

御成婚記念酒  
純米大吟醸 720ml



又、去る四月十九日、巻町より小和田家へ御成婚祝いの地酒として選ばれ贈呈され、小和田家所在の目黒区でも人気が高まり、結婚の儀当日同区の日本料理屋が越後鶴亀愛用の場面がテレビに全国放

六月九日、皇太子殿下・雅子様のお祝いの御神酒として皇室へ上納された。これに対し醸造元の上原社長は「私としては国家の御大典に関する事なのでマスコミへのコメント等は一切さしひかえさせていたがたい。」との事であった。それでも口コミによる広がり

は驚く程早く、「以前から秋篠宮様に御愛飲いただいていた。」との話を含めて名声が一気に上がった。又、先日、今回の皇太子殿下・雅子様のお印（しるし）のハマナスや饗宴の儀引き出物の銀器を宮内庁の依頼によりデザインした吉田左源二氏（東京芸術大学名誉教授）が、同社を訪れ、酒蔵見学や利酒を楽しまれた。吉田教授の同社訪問の目的は氏が上原酒造の純米大吟醸らのレットル・パッケージを担当する事になったからであるという。

映された事もいっそう人気に拍車をかけた。新潟市駅南の小売店では新幹線で東京からわざわざ越後鶴亀を買いに来てトンボ帰りする客もあるという。又、同社の純米大吟醸は一万円のものも五万円の価格で売られるなど、メーカーは困惑さみでさえある。県外では特に品薄の上、「幻の酒」化が急速に進んでいるようである。いづれにしても県酒にもう一つの花が咲き、県酒、ひいては新潟県全体のイメージアップにも連がり喜ばしい事である。

西蒲原郡巻町竹野町の上原酒造（上原誠一郎社長）の純米大吟醸（七二〇ml）が、皇太子殿下・雅子様のお祝いの御成婚に因り、皇室へ上納された。この清酒は完全無農薬栽培による指定田で契約栽培されている。栽培者は魚沼郡塩沢町の林吉明氏で、国際自然農法開発センターの会員として豊富な自然農法による稲作の経験を持っている。酒造用米は山田錦という。

# 今や〈幻の酒化〉現象



東宮雅子妃殿下御印（はまなす）